

「あなたの声が親孝行」

山口県 全柳寺住職 ぜんりゅうじ 山本昌男 やまもとしょうなん

仏教には、「愛語」という教えがあります。「愛を語る」と書き、文字通り「愛のある言葉、相手を思つての言葉がけを」という教えです

先日、八十代のご婦人とお話をしました。「自動車の免許を返納しました。事故を起こして、人様を傷つけるような事があつては大変です……。でも不便になりました。買い物をするにも、病院へ行くにも、人様をお願いしなければなりません……」タクシーもない山間の村です。近年買い物難民という言葉も聞きますが、本当に切実な問題です。

また、別のご婦人が話されました。「長男は私に、『元気か?』とも聞いてきません。でも次男は毎晩電話を掛けてきます。毎晩ですよ。毎晩……。はじめのうちはなんだか申し訳ないような気がしていましたが、最近では毎日の習慣になって、声を聞くとなんだか安心するんです……。この子も元気でやっている、私も頑張ろうって思うんです」と。次男の方との毎日の電話は、お母さまに安心や元気を与える「愛語」そのものであると感じました。年を重ねるにつれ、様々な事が不便になってきます。そんな中でも親御さんは子供に迷惑をかけまいと、日々一生懸命暮らしていらつしやいます。

ふる里のご両親はいかがお過ごしでしょうか。私のお寺の近所のお宅では、毎週土曜日に息子さんが泊りがけで、お母さんの様子を見に帰って来られますが本当に頭が下がります。地域でも「声かけ」の活動はありますが、一番の特効薬はあなたの声です。

電話でいいのです。何気ないやり取りで構いません。あなたの声を聞けば、親御さんは安心され生きる力も湧いてくるのです……。スマホは情報を得るだけのツールではありません。親孝行も出来るのです。あなたの声が、言葉が、親孝行なのです。